

あとがき

平成 16 年 1 月に開始しました宮崎県地域結集型共同研究事業は、多くの研究成果を挙げ、5 年間の事業期間を終えることになりました。

本事業では、「食の機能を中心としたがん予防基盤技術創出」の研究テーマのもと、宮崎県が抱える重大な疾病である「C 型肝炎から発症する肝がん」と「ATL」を対象として、宮崎県の得意とする「農」と「食」を活用することにより、その予防法創出のための基盤技術開発を進めて参りました。

本事業は、宮崎では初の取組みとなる産学官の大型研究開発プロジェクトとして、まさに産学官が結集することにより、新技術・新産業の創出、さらには、「宮崎における科学技術拠点」の形成を目指し、県をはじめ、関係機関が一丸となり、進めることができました。特に、本事業の特色としても挙げられる「医学」と「農学」の連携については、研究統括である河南洋教授や研究リーダーである坪内博仁教授、水光正仁教授の強力なリーダーシップのもと、強固な協力体制が構築されました。また、事業推進を通じて整備されたコア研究室においては、最先端の研究設備の導入と、雇用研究員の集中的な配置により、バイオメディカル分野における高い研究ポテンシャルを有する研究拠点が形成されました。これらについては、宮崎の一次産業活性化、さらには、バイオメディカル分野における新産業創出を目指すにあたって、貴重な財産を得ることができたと感じております。

研究成果としても、プロテオーム解析技術などの活用した新規疾病関連マーカーの同定による肝臓がん・ATL 診断法開発、新たな食品機能性評価システムの開発、ブルーベリー葉をはじめとした高機能性食品の探索と有効性の解明、高機能性農作物の育種・栽培技術の確立、など、高度かつ有用な研究成果を創出することができました。これらの成果は（独）科学技術振興機構をはじめとする関係機関の多大なる支援の賜であり、ここに深く感謝の意を表します。

今後は、これらの成果を、単に研究成果にとどめることなく、実用化・事業化へと繋げることが重要であります。本事業の位置づけとしましても、県や産業界が主体となることで、実用化研究を加速する「フェーズⅢ」の充実を効果的に推進する必要があります。

実際、本事業で創出された研究成果の多くは、産業界との連携や、実用化を目指した新規プロジェクトへの展開が図られており、今後、ますますの発展が望めるものと期待しています。県でも、本事業の後継事業として「食と健康・バイオメディカル産業創造プロジェクト」が平成 21 年 1 月から始動し、具体的な事業化構想が固まりつつあります。

この 5 年間、本事業の進捗を見定めて参りましたが、本県における産業振興には、産学官の連携による確かな技術の蓄積、また、その活用による新産業の創出が、極めて重要であると実感しています。本事業は、それを実現するための先導的なプロジェクトであったことから、フェーズⅢを何としても成功に導き、地域の発展にしっかりとつなげていきたいと考えております。関係各位におかれましては、引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

宮崎県地域結集型共同研究事業

事業総括 中 島 勝 美